

大谷翔平選手の投打にわたる活躍が連日報道された。2022年の大リーグも、MVPの発表で一段落した。

ところで、大谷選手の活躍は日本国内だけで注目され、米国ではそれほど大きな話題になっていないという話を耳にすることがある。

たしかに、内容のいかんにかかわらず、投打の成績を詳細に伝える日本の報道機関の様子に違和感を覚え、過大に評価されているという疑念が生じるとしても不思議ではない。

しかし、特に大リーグ機構が公式ウェブサイトや各

「球界の推し」となった大谷翔平選手

大リーグ機構は、投手として登板する際には、試合の前後と最中の様子をSNSで紹介し、打者として本塁打を放てば、やはり映像付きでSNSに投稿している。

今どきの言葉づかいにならないなら、大リーグ機構の積極的な姿勢は、「球界の推し」が大谷選手であることを示している。

2008年から2022年までの15シーズンの間で、先発投手の平均の球速が約148kmから約151kmに上昇し、打撃面でも専用のデータ解析ツール「スワットキャスト」が大リーグに全面的に導入された。2015年以降、より効率的に長打を放つ方法が数値によって示されるようになった。

こうした状況の変化は、

多様性象徴する 投打にわたる活躍



名城大学外国語学部准教授
鈴木 裕輔

種SNSで発信する情報を眺めると、大谷選手の活躍に注目するのは、日米共通の現象であることが分かる。

すずむら・ゆうすけ 比較思想、政治史、比較文化。法政大
学博士(学術)。1976年生まれ。

谷選手は投打のいずれでも現在のメジャーで上位5番以内に入る実績を示すという、誰も予想できなかった境地に達している。これなら、大リーグ機構が大谷選手をひいきにするのも当然だろう。

だが、機構には別の考えがある。大谷選手を、球界の進める多様性の尊重を象徴する存在と捉えているのである。

今季、大谷選手が二桁本塁打と二桁勝利を達成したとき、「ブレット・ローガン以来」という表現を目にした読者がいるかもしれない。ローガンとは黒人リーグの選手で、1922年に二桁本塁打と二桁勝利を記録している。

機構は、2020年に1920年から1948年までの黒人リーグの記録を公式記録と同様に扱うことを決めた。その2年後に大谷選手が記録を達成したことで、記録だけでなく、黒人リーグという忘れ去られたリーグにも、注目が集まる結果となっている。

何より、投打で第一級の成績を挙げるといって、現代の野球の不可能に似た大谷選手は日本出身である。その大谷選手が日本ではなく米国を舞台に活躍していることは、世界から優れた才能が大リーグに集まっているための重要な証拠となる。

こうした背景から、大谷選手は「球界の推し」となっている。そして、これからも、その活躍は、機構によって大きく取り上げられるのである。

